

3 - 11 相模湾西部の海底地形・地質構造について

Submarine Topography and Geological Structure

Westward of the Sagami Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部は昭和51年10月から52年2月にかけて、伊豆半島東部の地盤隆起に関する特別研究および東海地方東部における地殻活動に関する特別研究の一環として標記の調査を行ない1/5万の海底地形図、同地質構造図を作成したので報告する。調査方法は会報18巻参照。海底地形（第1回、第3回）

この海域の海底地形は熱海沖に湾入する大陸斜面、これを切る熱海海底谷、その南東岸に沿う熱海海脚・真鶴海丘、伊豆半島東岸に平行する初島沖・熱川沖の大陸斜面、大室山火山群の裾野を構成する大陸斜面、火山群と推定される伊豆半島～伊豆大島間の海丘群、相模トラフ内の海底谷群などによって特徴づけられる。これら海底谷、海脚、大陸斜面、海丘群の配列などにはNNE - SSW, NE - SW, NNW - SSEおよびNW - SEの方向性が認められる。熱海海底谷の谷頭にあたる真鶴～熱海間の大陸棚はその両側に比べて幅が狭く、大陸斜面にかけて地形が複雑となっている。伊東沖にはやゝ広い大陸棚が見られ、初島側にかたよった浅い半腕状をなす。多数の海丘は伊豆半島諸火山と大島以南の諸火山をつなぐ海底火山で、初島以南の大陸斜面に見られる特異な小起伏地形もまたこの影響と見られる。

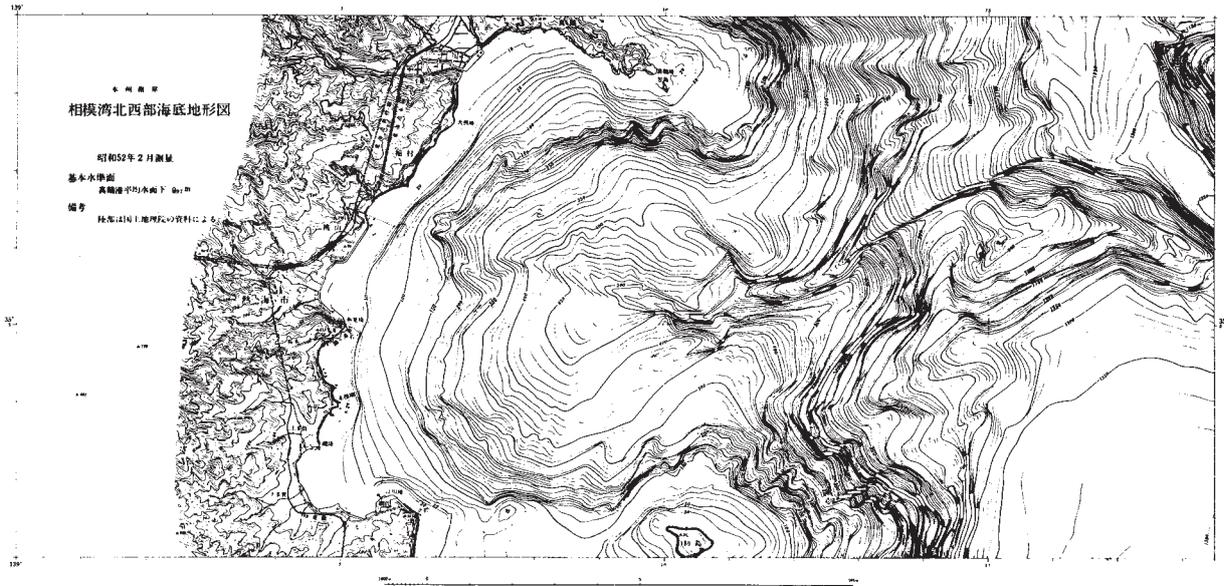
この海底断層はNE - SW, NW - SE, NNE - SSWの方向に分けられる（NNW - SSEを加えて4方向とした方がよいかも知れない）。この中、NE - SW, NW - SE系の断層は第四系を切っていたり海底面に変形を加えている。これらは伊豆半島の陸部に知られている同方向の活断層系¹⁾に関連するものであるかも知れない。

詳細は前述した特別研究報告書（科学技術庁）に掲載されている。

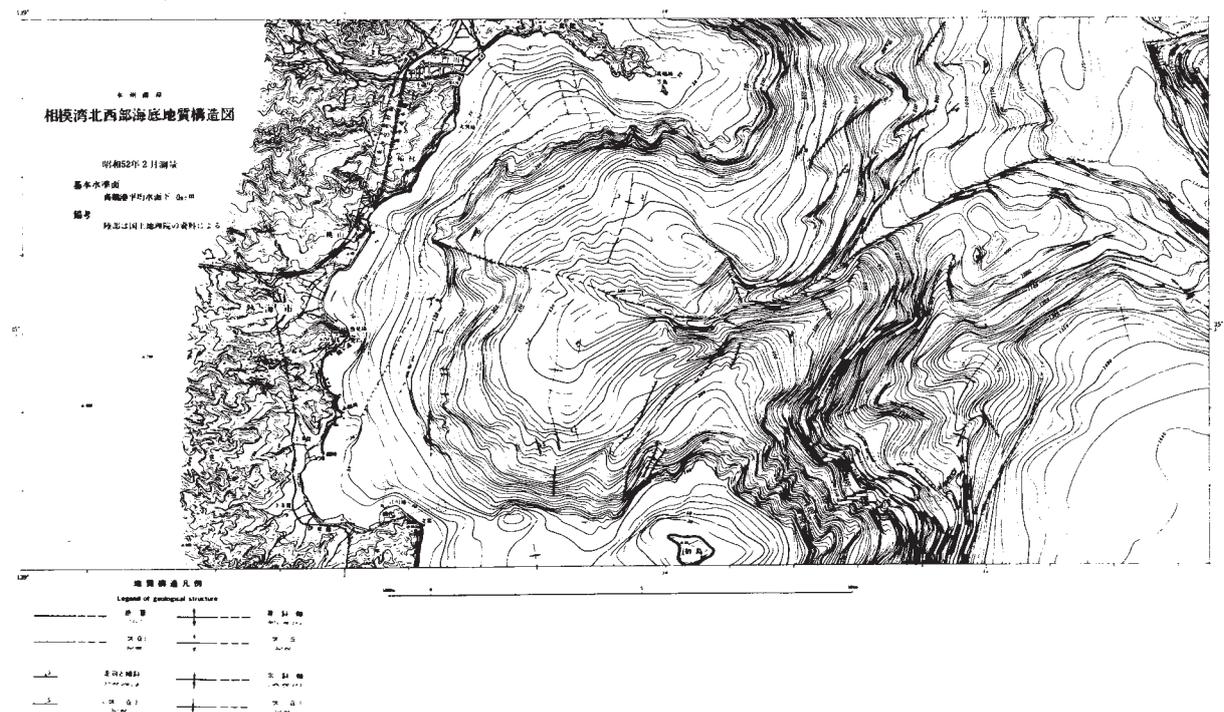
（桜井 操）

参 考 文 献

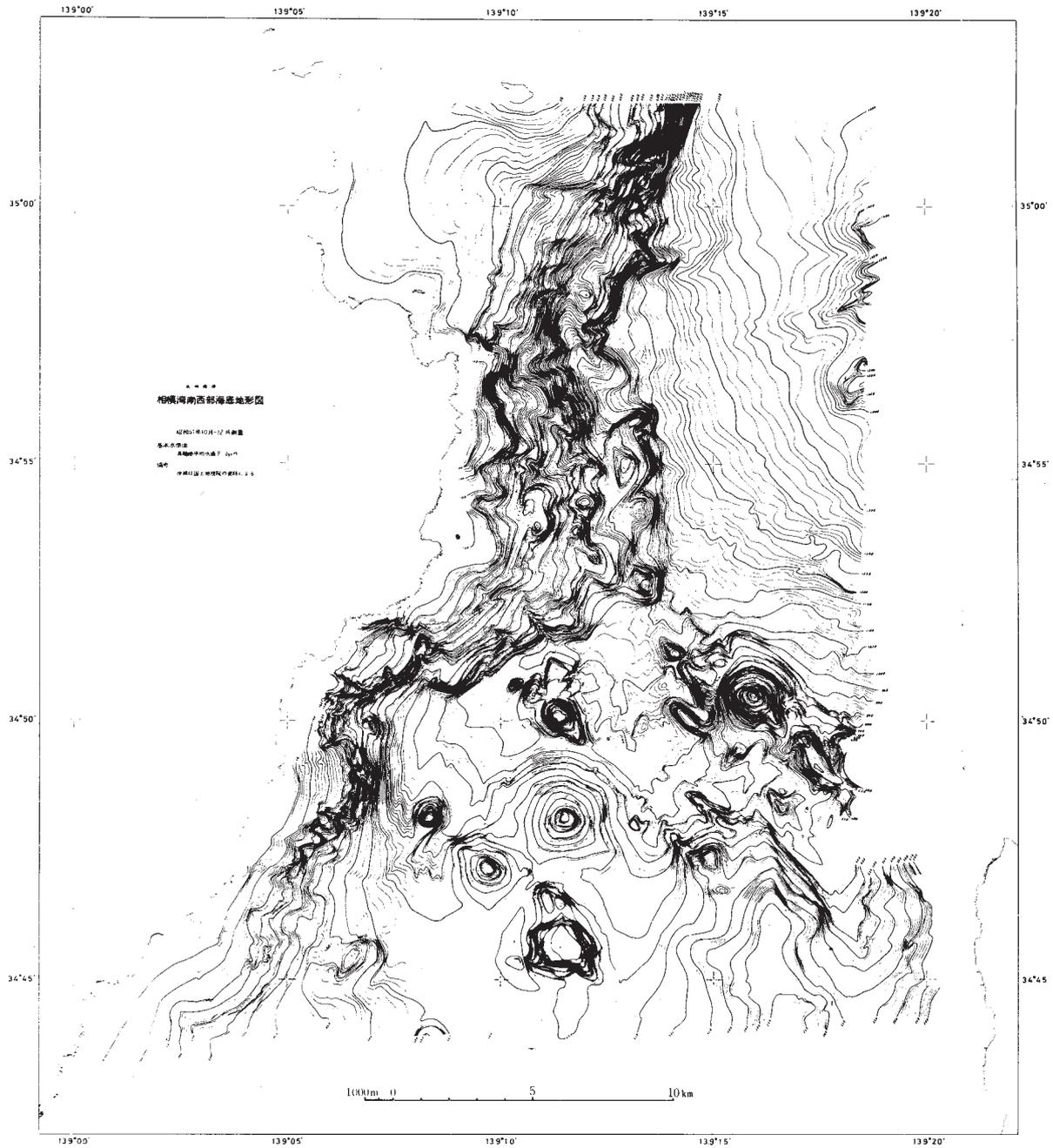
- 1) 村井 勇・金子史朗, 1974: 1974年伊豆半島沖地震の地震断層, とくに活断層および小構造との関係, 震研速報, 14, P159 - 203



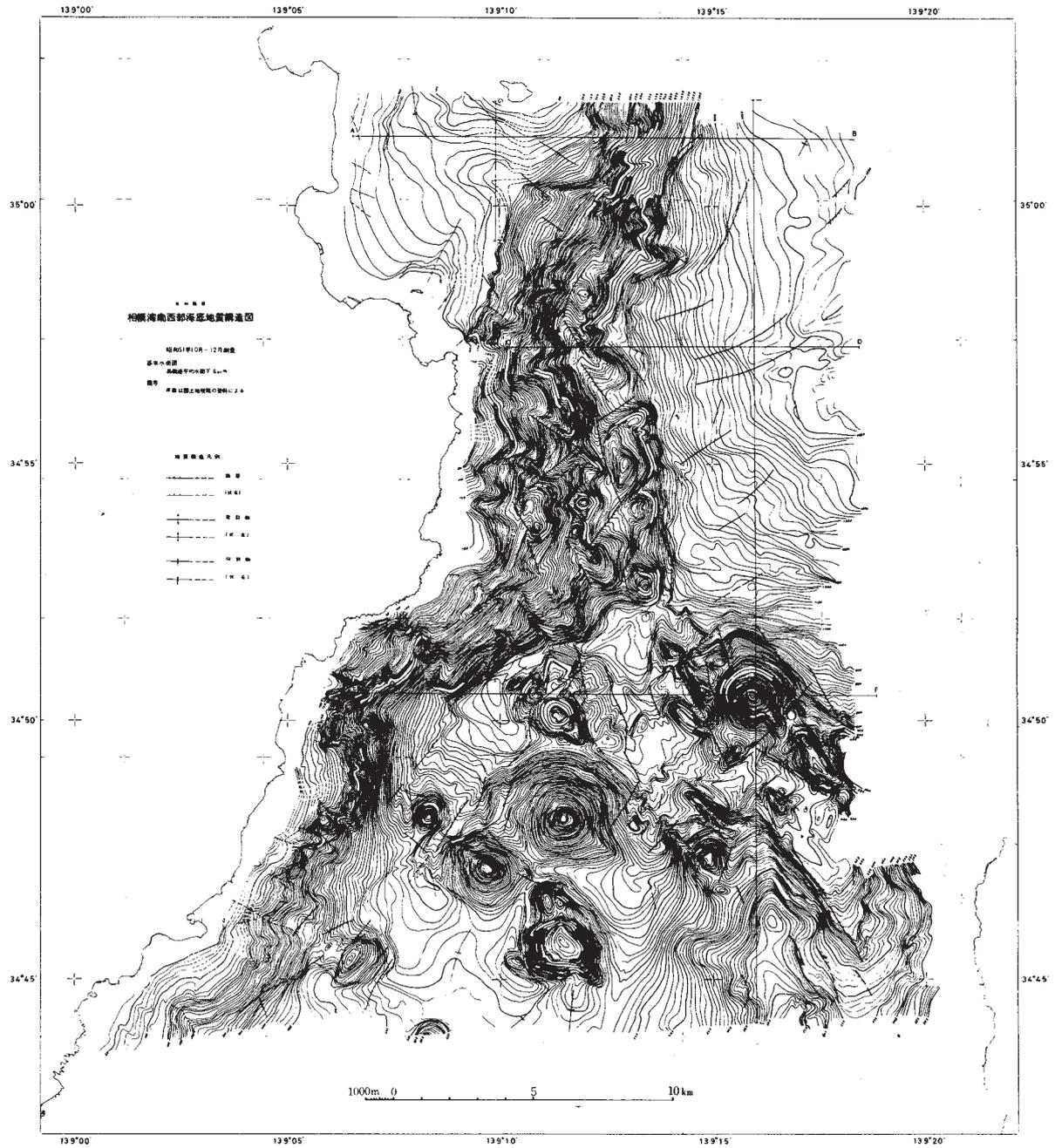
第1図 相模湾北西部海底地形図
Fig. 1 Bathymetric Chart (northwestward).



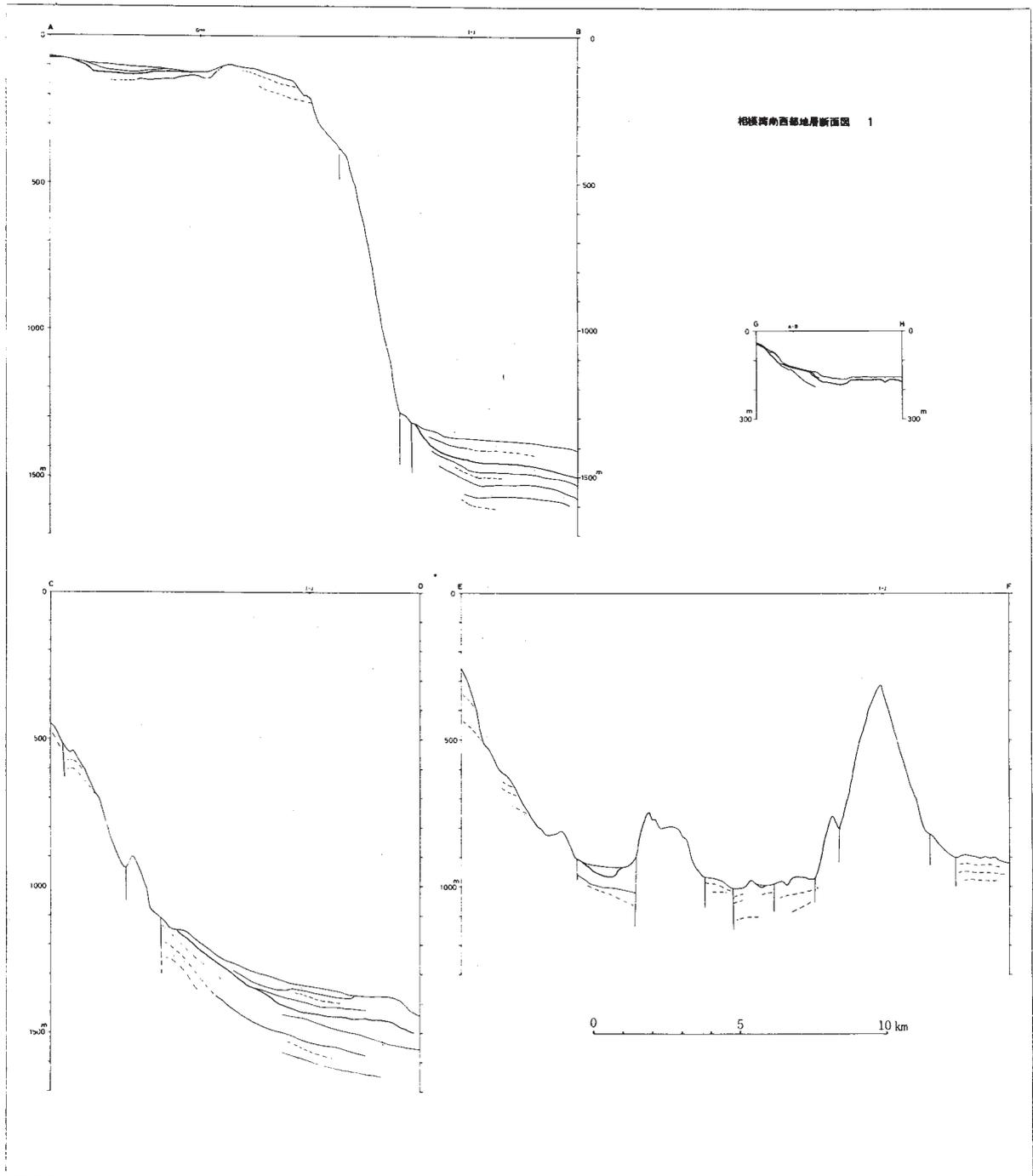
第2図 相模湾北西部海底地質構造図
等深線は大陸棚海域：沖積統基底，その他第四系基底を示す
Fig. 2 Submarine Geological Structural Chart (northwestward).



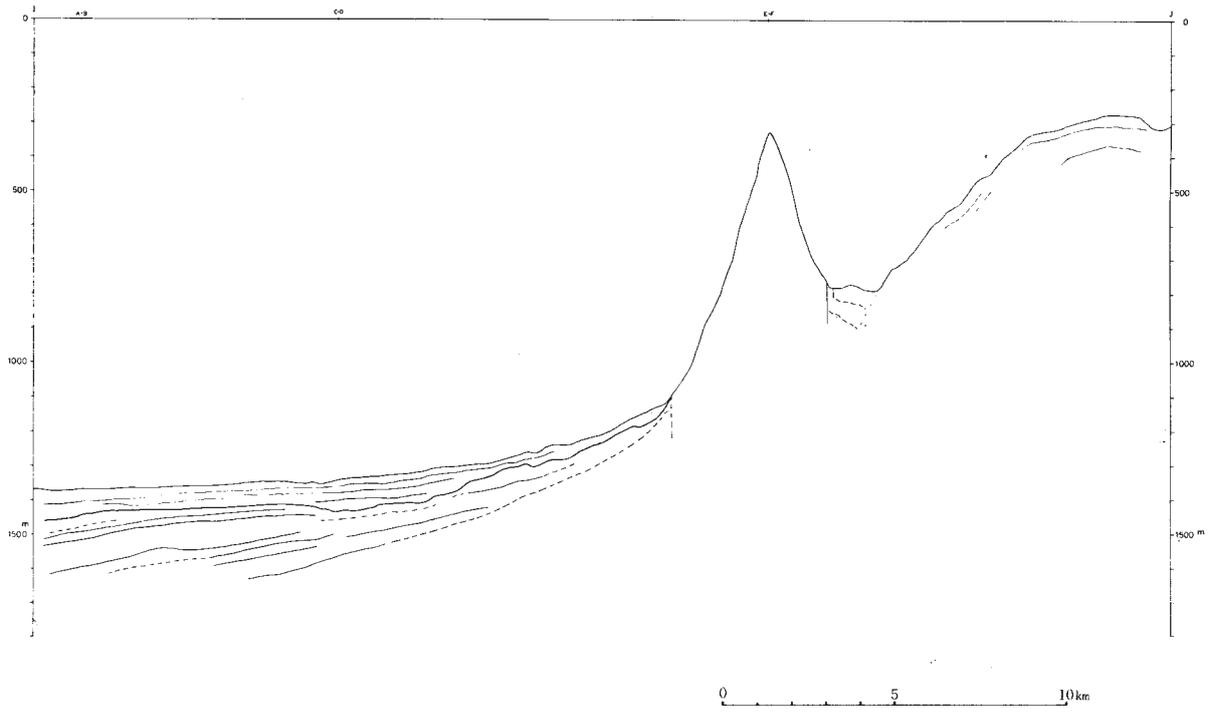
第3图 相模湾南西部海底地形图
 Fig. 3 Bathymetric Chart (southwestward).



第4図 相模湾南西部海底地質構造図
 等深線は第2図の定義に同じ
 Fig. 4 Submarine Geological Structural Chart (southwestward).



第5图 相模湾南西部地层断面图1
 Fig. 5 Geological Profile 1 (southwestward).



第 6 图 相模湾南西部地層断面图 2
 Fig. 6 Geological Profile 2 (southwestward).